

利用者調査結果（場面観察方式）

調査日時	平成29年2月20日9時00分～平成29年2月21日17時00分
調査時の状況 （場所、利用者数等） 100字以内	調査日時は2日間ですが、実際に利用者の状況観察を実施したのは2月20日の午前中からお昼頃までの時間です。見学場所は、デイルームと食堂を見学し、利用者と職員とのかかわり等を観察しました。当日の利用者は20名で、1日平均の人数であるとうかがいました。

	利用者の状況と職員のかかわり	評価者が感じたこと
サービス提供	<p>食事サービスでは、トレーに個別に食札を付け、個人別に配慮された食事内容で提供されています。職員は食札と内容を確認の上、食事を配っています。利用者は自立の方、食事介助を必要としている方などであり、職員はそれぞれに、「〇〇さん、パッケン」、「おいしいな～、ドリア」等、話かけながら食事を進めていきました。中には胃瘻の方も居り、職員が経管栄養を処方していました。食形態は、一人ひとりに応じて刻み食や、一口サイズカットのもの、ゼリー、ミキサー食などに配慮され、個別対抗が為されています。トレーは食器が滑らないものを使用し、食器、食具は必要に応じた種類が用意され、縁が深く持ちやすいもの食器で提供しています。</p>	<p>食事の提供としてのサービスについて記します。食堂は評価でも記載した通り、センターとして利用者全員を収容するスペースに限りがあり、デイルームも活用して食事を摂っています。利用者には重度の方が多く、「食事は食堂で行う」固定概念からデイルームの活用することによる良い面も見られましたが、より「食事を行う」工夫、環境作りは必要に思いました。職員は利用者一人ひとりに愛情を持って食事介助を行っている姿、そして利用者がサービスを受けている状況を観察できました。</p>
利用者個人の尊重	<p>朝での利用者の様子は、音楽を聴いてリラックスしたり、それぞれ思いを尊重して過ごせるように配慮しています。利用者への水分補給では、個々に応じた方法でコップ等を手渡しての提供、車いすを利用している方にはリクライニングをして飲みやすくする等、その方の立場に立って職員はケアしています。食事提供では個人別に食札を付け、個別ケアが成されています。作業室には、カーテン、パーテーションを備え、排泄時や、身体確認時の処理等、プライバシーを保てるようにし、男女のトイレにはパーテーションを設備し、プライバシーを確保されています。また、スノーブレン室を備え、グループクリエーションに参加が難しい方の個別プログラムの1つとして活用をする等、利用者個人を尊重した環境作りが成されています。</p>	<p>利用者は重度の身体障害者の方が多く、介助が前提の活動となっていますが、職員の方は利用者一人ひとりに如何にして楽しんでもらえるか、如何にして個人の尊厳とプライバシーの維持が出来るかを考えてケアにあたっている状況が分かりました。限られたスペースの中での職員個々が努力している様子を十分確認できました。</p>